

7/23・24 **長岡京・長岡ともにV**  
伊豆チャンピオンズ杯少年サッカー

夏の日差しの下、第24回伊豆チャンピオンズカップ少年サッカー大会が田方の11会場で行われ、県内外の48チームが熱戦を繰り広げました。今年も、京都府長岡京市から長岡京SSS(サッカースポーツ少年団)が参戦。子どもたちは、伊豆の国市の長岡SSS関係者宅にホームステイしました。代表の大判雅章団長は「この大会のおかげでチームは成長できた。子どもたちにはサッカーを通じて、一生付き合えるような交友関係を築いてほしい」と語ってくれました。大会の結果は、U-12(6年生)の部で長岡京SSSが、U-11(5年生)の部で長岡SSSが、ともに優勝しました。



熱闘する子どもたち(上写真)  
長岡京SSSも参戦(左写真)



来場者に無料で振舞われ好評だった田中山スイカ

7/31 **夏の収穫祭 大盛況**  
田中山すいか祭り 開催

毎年恒例の田中山すいか祭りが田中山公民館で開催されました。今や、伊豆の国市の夏のブランドとして定着している『田中山スイカ』の旬を味わおうと、市内外から多くの来場者が訪れました。会場では、おいしそうな田中山スイカに次々と包丁が入られ、来場者に無料で振る舞われました。子どもからお年寄りまで、たくさんの方がおいしいスイカを味わいました。また、スイカやトウモロコシ、季節の野菜の販売、特大スイカや小玉スイカの目方当てクイズ、しゃりぎり演奏なども行われ、田中山の夏の収穫祭を盛り上げました。

8/7 **ふるさとの川に親しむ**  
狩野川遊び大会 開催

第3回狩野川川遊び大会が、大門橋く千歳橋の河川敷で開催され、地元住民がイカダ下りやカヌー体験、川遊びなどで川に親しみました。イカダ下りはタイムを競う早下り部門と競漕しない悠々下り部門に計27チーム、114人が参加しました。趣向を凝らした手作りのイカダで、約3キロを川下りしました。トラックや重機などの形をしたイカダも登場し、堤防の観客を楽しませました。また千歳橋付近の会場では、子どもたちがカヌー体験や水のすべり台、建設重機の乗車体験、河川敷の巨大迷路など、川辺での水遊びを満喫しました。



趣向を凝らしたイカダで観客を楽しませたイカダ下り



市に贈られたアヤマメの目録(左写真)  
あやめ育成指導を受ける(下写真)

8/11 **『絆』のアヤマメ贈られる**  
多賀城市副市長が訪問

市が災害相互応援協定を結ぶ宮城県多賀城市の鈴木明広副市長らが、市役所を訪問しました。鈴木副市長は、被災者宿泊場所提供事業や建設業協会のがれき撤去作業など、当市が行った復興支援に、「皆さんのおかげで、今ではどこに被害があったのか分からないほど復旧が進んでいます。完全復興に向け、頑張ります」とお礼を述べました。また同時に、多賀城市から伊豆の国市へアヤマメの株21種一万本が贈られ、翌日には、多賀城市の職員から栽培方法の指導も受けました。アヤマメは両市の『市の花』で、中には『絆』という品種もあります。株は、来年当市で開催予定の『あやめサミット』に向け、大切に育てます。



土台となるイカダは麦わらで作る



縄を編み込んで、より太く強い縄に



竹製の『針』で麦わらを縫い込む



6m以上の竹を束ねタイマツを作る



『かわかんじょう』完成!



今年も水霊を鎮め、水難者を供養しました

8/1 **今年も水難者を供養**  
伝承行事 かわかんじょう

神島に伝わる伝承行事『かわかんじょう』が行われました。『かわかんじょう』は、当日の朝から、地元保存会や子ども会が作り出す。大型のものは高さ6mを超え、子どもたちはまず縄を編み込んで、太く強い縄を作ります。イカダは、竹枠に麦わらを敷き詰めて竹の針で縫い込んで作ります。最後に、竹を束ねたタイマツをイカダに

立て、『かわかんじょう』は完成です。日没後の6時40分頃、タイマツに点火。『かわかんじょう』と共に川に入った若衆が「ウ、ウ、ウワハイ」と独特の声を掛けると、橋の上の子どもたちも「ウ、ウ、ウワハイ」と返します。観客が見守る中、若衆は子どもたちと掛け合いながら、燃え盛るイカダを押し流しました。この『かわかんじょう』は、狩野川の水霊を鎮め、過去の水難者を供養するため、毎年行われています。



18:40頃、点火



「ウ、ウ、ウワハイ！」